

第18回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 まちづくり推進部会

日時：令和元年11月22日（金）10:00～12:00

会場：大宮区役所6階 大会議室

次 第

1. 開 会

2. 報告事項

（1）第8回合同部会・第9回推進会議について

3. 議 題

（1）まちづくりガイドラインの検討状況について

4. その他

5. 閉 会



大宮駅グランドセントラルステーション構想

第18回 まちづくり推進部会 討議資料

第8回合同部会・第9回GCS推進会議について

- 10月24日（木） 第8回合同部会
- 11月14日（木） 第9回GCS推進会議

(1) 第8回合同部会・第9回GCS推進会議について

①第8回合同部会での意見への対応

ガイドライン（素案）に関する主な意見	修正・追加記載等の対応
さいたま市として目指す都市像へまちづくりを誘導していく上で、ガイドラインの方策案の記載と地域貢献を結びつける必要があるのではないか	民間まちづくり事業において地域貢献となる項目について、 方策案と貢献項目一覧 をガイドライン内に記載していく。
さいたま市全体として取組んでいるスポーツ振興等の総合計画と関連するような内容も記載するべきではないか。	「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」 等を踏まえながら記載を検討。
景観形成のコントロール方法について、景観地区や地区計画等で検討していく旨をガイドラインに記載した方がよいのではないか	ガイドラインとその他の 景観マニュアル（仮称） のそれぞれで どこまでの内容を記載していくのか を協議しながら適切に記載を行う。
既存の商店街もエリマネの一つであり、GCSにおけるエリマネとどのように関連付けるかについて丁寧に記載する必要があるのではないか	既存組織等を把握 しながら、GCSにおける適正なエリマネの組織体制について検討していく。

(1) 第8回合同部会・第9回GCS推進会議について

①第8回合同部会での意見への対応

個別整備計画に関する主な意見	修正・追加記載等の対応
構想実現案の第1案をもとに計画を具体化するという事務局の提案に対し、「第1案で、広場の位置と開発街区との重複区域について検討していきたい」、「南地区として公共貢献を加味した第1案の派生案を検討したい」、「第1案、第2案とも受け入れられない」	第1案をもとに計画を具体化する際に、将来的な可変性も考慮して、 交通機能の分散配置案を比較検討 していく。 提案に基づき 南地区の公共貢献を加味した構想実現案第1案の派生案を検討 していく。
駅前をオープンな空間とするため、景観の観点から、タクシープールを地上に配置すべきでない。	
旧大宮区役所跡地にタクシーとバスを入れる分散配置も考えられるのではないか。	
駅改良計画について、案①をもとに検討を具体化することを確認	構想実現案との調整を踏まえ、 案①で駅改良計画（素案）の検討を深度化 していく。
道路整備の内容について、中央通り4車線化が最も現実的である。中央通り4車線化の整備検討を深掘りすべきではないか。	中央通り4車線化は都市計画決定されている。シミュレーション結果を踏まえて 整備順位 などを今後検討する。
開発街区の容積率の想定について、交通にとって安全側（厳しい条件）の全地区1,000%でシミュレーションを行う。	全地区1,000%でシミュレーション した結果を見て協議を行う。
大宮駅周辺の荷捌きの現状を踏まえると、集配の共同化など物流対策を検討する必要がある。	駐車場地域ルールを検討と同時に、 物流への対策 も今後検討する。
推進部会や合同部会とは別に、各委員が思っていること、思いの丈を話す場を設置してはどうか。	各委員が思いの丈を意見交換する場を開催する。

(1) 第8回合同部会・第9回GCS推進会議について

②第9回GCS推進会議での意見への対応

ガイドライン（素案）に関する主な意見	修正・追加記載等の対応
「大宮らしさ」とは何か伝わらない。全体として、大宮にとって何が大事か、大宮の価値を踏まえた内容にすべき。	【まちづくりの前提となる視点】の項目を追加し、大宮の風土や歴史を踏まえた上での「大宮らしさ」を整理し、方策案等に反映する。
回遊性に関する4つのキーワード（アーバンパレット、ストリートテラス、おもてなし歩行エリア、辻空間）が分かりにくく、整理が必要。	【都市空間形成の目標】における回遊性において、アーバンパレット、ストリートテラス、おもてなし歩行エリア、辻空間の関係を整理しながら一元的に説明する。
GCSプラン「はじめに」の部分で、何を目指しているのかが理解できるよう、項目を補強すべき。	「大宮の果たすべき役割」に目指すべき内容等についての追記を検討する。
写真のイメージが良くないのでは。「地域の特性が見える空間のイメージ」「スポーツ文化が育まれる広場のイメージ」「道路等で分断されないまちのイメージ」「まちとえきをつなぐ歩行者空間のイメージ」等精査が必要。	イメージについて、方策案の検討も踏まえてどのような活動ができるか見えるように、イラストも用いながら検討する。
現状の大宮の写真がないためわかりにくい。現状での大宮の良い点、悪い点、こうすれば良くなる、といった内容の比較があると理解しやすくなるのでは。	【大宮のまちづくり戦略】【都市空間形成の目標】において、大宮の写真も用いながら現状の強み弱みを比較等できるような内容を検討する。

(1) 第8回合同部会・第9回GCS推進会議について

②第9回GCS推進会議での意見への対応

個別整備計画に関する主な意見	修正・追加記載等の対応
ガイドラインと個別整備計画のつながりが見えない。基盤のあるべき形を示したうえで、個別整備計画を示すべきではないか。	ガイドラインとのつながりが見えるよう、 個別整備計画の表現の工夫 を行う。(全体整備イメージ等)
中地区は事業協力者が決まるのが3月のため、構想実現案の決定とのスケジュール感の調整が課題だ。	
第1案で決定したということか。駅前広場や交流広場の広さはまだ決定されていないということによいか。	第1案をベースとして、再開発事業の状況等を踏まえながら、 今後、変更する可能性があることを記載 する。 交通機能の必要量については骨子案の段階で確認 したものをベースとして今後も検討を進める。 交通機能の配置に関しては継続して検討 する。
技術の進歩により将来の交通広場のあり方も変わってくるのではないか。	
現在、先進技術による駅前広場空間への影響予測はできていない。高齢化によるバス需要増加も予想される中では、交通機能・空間を減らす議論は難しい。	
東武駅舎が現在より60m程度南に移動することで、東武とJRの乗換利便性が向上すると認識している。	東武鉄道の南進については、案①をもとに計画を具体化する。 「公共的空間等の検討エリア」や「駅舎と駅ビル等機能の検討エリア」については継続して検討 する。
「公共的空間等の検討エリア」や「駅舎と駅ビル等機能の検討エリア」の議論はこれからだと認識している	
新東西通路についての扱いが少ないのではないか。	駅改良計画(素案)の一部として記載を予定しているが、 記載内容や表現方法について検討 を行う。
個別整備計画は、様々な案がある中でこの案をベースに検討を進めていくということが合意できていくとよい。全体の整備計画があって個別計画が記載されていくような構成となるといい。	